

主 催 公益社団法人平塚青年会議所

ひらつかウェブ

タウンミーティング

(令和3年度第1回 市民と市長の対話集会)

開催結果報告書

- 1 開催日時 令和3年(2021年)8月6日(金)
午前10時から正午まで
- 2 開催場所 会議用ソフト Zoom によるオンライン会議
- 3 参加者 高校生22人、中学生15人
大学生ファシリテーター9人



ひらつかウェブタウンミーティングの様子

4 理事長開会あいさつ

お忙しい中、市長をはじめ大勢の方の御協力により、本日ひらつかウェブタウンミーティングを開催できることを大変うれしく思います。少子高齢化が叫ばれる時代の中で、本日までに皆さんが平塚のまちを良くするために色々考えてくれた経験が、これからの人生において市政や社会問題に積極的・主体的に取り組むことに繋がってくれるとうれしいです。本日はよろしく申し上げます。

5 市長あいさつ

本日の開催に当たり、平塚青年会議所をはじめ御協力いただいている皆さんに感謝します。本日は市内6校から22名の高校生とともに、初めて中学生の15名に参加していただきました。夏休みの中で本日のために準備をしてくれたことを大変うれしく思います。直接お会いできず残念ですが、オンライン環境を利用して、皆さんと意見交換できることを楽しみにしています。

6 主なミーティングの内容

グループ1（高校生）・空きテナント活用

【高校生】

私たち空きテナントグループは、高校生が主体となり商店街全体に賑わいを創出するための提言をしたいと思います。私たちは現在ある空きテナントの一部を高校生がSDGsに貢献するためのプロジェクトを行うためのスペースとして活用したいと考えました。そのために市のほうで空きテナントを借り上げ、そこを高校生でも使えるレンタルスペースにしていきたいです。

このレンタルスペースを活用し高校生が主体となってSDGsに貢献できるようなイベントやブースを展開したいと考えています。例えば市内の高校が月ごとに割り振りイベントを行ったり、高校の垣根を越えて共同でイベントを企画発表していければ高校生同士の交流も進むと考えています。具体的なイメージが思い浮かばないと思うので私たち空きテナントメンバーがもし提言が実現した時に実施してみたいことをまとめてみました。

私たちはSDGsの項目3の「すべての人に健康と福祉を」と項目4の「質の高い教育をみんなに」や平塚市の行政目標である「共生社会」を実現させるために小学生・中学生に向けた手話教室を開きたいと考えました。

なぜ、手話をやるという話になったのかというと、このグループ内で手話について知っている人、専門性を持って学んだことがある人が多く、その利点を生かして、SDGsという世界共通の話題にも取り組めるようになるのではないかと、この可能性を感じたからです。

具体例を含めたこの提言を実際に行うことで見込めるメリットとしては、大きく3つあります。

1つ目は、コロナ禍でも活動ができることです。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、外出自粛ムードの中、実際にあいさつや会話をする機会も減っています。その中で、私たちが例に挙げた手話というものを扱うことで、飛沫感染のリスクを避けつつ活動を行うことができるので、学校や地域単位でも参加しやすいのではないかと話に至りました。

また、コロナ禍が明けた後もSDGsについては世界共通の課題として掲げられているので将来の日本を担う高校生が積極的に活動することによって「共生社会」の実現に向けた動きを平塚市全体に広めたいと考えます。

2つ目は、学生間での交流を深める機会になるのではないかとということです。ひらつかウェブタウンミーティングで出会った私達が意見を持ち合って色々な活動を考えたように、他の学校との間で考える機会を設けることによって、これまではない、学校間での繋がりも持てるのではないかと思います。これは高校生同士だけでなく小学生中学生も交えていきたいと考えています。活動がより活発になって来たら、実際に学校同士で企画を考えたり、活動を展開したり、新しくできる平塚文化芸術ホールの活動にも繋げていけるのではないかと考えています。

3つ目は高校生の持つエネルギーで商店街全体に活気をもたらすことが出来ることです。

商店街の一角で高校生がイベントを企画し、実行することによって、そこに参加する小中高生が商店街を訪れるため絶対的に若年層の人出が増えると考えました。また高校生と商店街で働いている方とのコミュニケーションが増えることによって、高校生は新たな学びを得ることができ、商店街で働いている方は若年層のニーズを知ることができお互いにWin-Winな関係を築くことができると考えました。

以上の点から、私達は市で空きテナントを借り上げ、そこを高校生でも使えるレンタルスペースにしていきたいです。御検討のほど、よろしく申し上げます。

【市長】

なぜこのような高校生が主体となり商店街全体に賑わいを創出するための提言になったのか詳しい経緯を教えてください。

【高校生】

提言の作成にあたりまずは私たち高校生の視点から平塚駅前の商店街が持つ課題について考えていきました。そこで一番に挙げられたのが私たち高校生を含めた若年層が商店街を利用する機会が極端に少ないことでした。これを解決するためにどうすれば利用機会の創出ができるか試行錯誤した結果、先ほど述べたよう

な提言に繋がりました。

【市長】

高校間で交流し、イベントを企画・発表するとのことですが、具体例で挙げている手話教室以外にどのようなものを想定しているか教えてください。

【高校生】

平塚農商高校と平塚工科高校がコラボをし、平塚市が抱える農業・商業・工業の問題にアプローチできるようなイベントの企画やPR動画の作成を考えています。各高校の特色を精一杯活用し、各々の持つ力を発揮できるイベントを企画したいと考えています。今回例に出した手話教室も高浜高校と平塚湘風高校が普段から行っている手話の授業や課外活動を生かすことで行うことができると考えています。

【市長】

御提案いただきありがとうございます。御提案のあった活動内容については、多様な人々の活動拠点や滞留できる場所、商業者や学生、企業のチャレンジの場となるコミュニティ拠点として、若手商業者などで構成される「平塚まちなか活性化隊」が運営している「まちなかベース きちきち」があり、そこでは、既に高校生を含め多くの方々により様々な活動が行われています。

併せて、市では事業者が空き店舗をレンタルスペースやサテライトオフィスにした場合の店舗賃借料や店舗改装費に対する補助制度も実施しています。

また、御提案の中には、SDGs推進のための具体的な取り組み例として手話教室の開催のお話もありました。市内には盲学校やろう学校などの特別支援学校がありますので、それらの生徒さんともこの「まちなかベース きちきち」を通じて交流をしていただきながら、障がいのある方々への理解を深めていただければ「地域共生社会」の構築にも繋がっていくと思いますので期待をしています。

生徒の皆さんには、待ち合わせなどで気軽に御利用いただくとともに、イベントの企画・実施を通じて、商店街を盛り上げていただければと思います。

グループ2（中学生）・空きテナント活用

【中学生】

平塚市の商店街の現状の課題として、商店街の雰囲気が暗く怖いという点が挙げられます。商店街が暗く怖いと感じる理由は、人通りが少ないことやシャッターが閉まっているお店が多いからです。結果、学生の私たちには歩きづらいと感じます。

この課題を解決するためには商店街の雰囲気を明るくする必要があります。そのために、私たちは3つの案を考えました。

1つ目は、商店街のシャッターに絵を描くことです。シャッターに描く絵は、

平塚の風景を商店街全体で表わしたいです。絵を描く人は平塚にゆかりのあるオノルイーゼさんをお願いをし、色を塗るのは私たち旭陵中学校の生徒が手伝いたいと考えています。

2つ目は、商店街に緑を増やすことです。平塚駅南口にある噴水の広場は、平塚市の特産品のバラが沢山植えてあり、とても雰囲気明るくて癒されます。北口の商店街にも花を植えて商店街を利用した人に明るい気持ちになってほしいです。花を植えるのは、私たち旭陵中学校の生徒が行いたいと考えています。

3つ目は、商店街に音楽を流すことです。いつでも沢山の人が楽しめるように色々なジャンルの曲を流してもらいたいと考えています。流す曲は、平塚市民にアンケートを取って決めていただきたいです。

上記の現状に加えて、商店街に人がいないことと、お店を出しても儲からないので空きテナントが増えてしまう現状もあります。この課題を解決するためにはお店を出したくなる街ひらつかにする必要があります。そのために、私たちは3つの案を考えました。

1つ目は、お試し期間を設けることです。期間は約2ヵ月で、売上げが良かったら、お試し期間が終わった後も、本格的に平塚でお店を運営していただきたいです。

2つ目は、お試し期間の制度を使って出店しているお店に対して、設備を整えることです。例えば、飲食店であれば、調理器具などの貸し出しを行っていただきたいと考えています。

3つ目は、お試し期間の制度のPRに加えて、期間限定ショップのPRを行うことです。PR方法は、平塚市の公式インスタグラム、広報ひらつか、タウンニュース、湘南ジャーナルなどが挙げられます。平塚市全体で商店街を盛り上げていきたいです。

これらを踏まえて、少しでも空きテナントが減り、商店街の雰囲気がより一層明るくなることを望んでいます。以上、空きテナントグループ2の政策提言とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

【市長】

商店街のシャッターに平塚市の風景を描くということですが、実際に絵を描くならどんなものが良いと思いますか？

【中学生】

複数のシャッターを一つの絵として繋げたものが良いと思います。例えば、湘南平や湘南ひらつか七夕まつり、湘南の海、特産品であるお米やバラなどがあると思います。華やかな商店街にすれば、話題性もあり、人通りが良くなると思っています。

【市長】

平塚市でお店を出しやすくなるような工夫として、お試し期間を設けるとのことですが、学生はどんなお店があったら商店街を利用したいと思いますか？

【中学生】

流行りの物を扱ったお店や、おしゃれなカフェ、スポーツができる施設などの若い人が利用しやすい魅力的なお店があったら商店街を利用したいと思います。

【市長】

御提案いただきありがとうございます。まず1点目の「商店街の雰囲気をも明るくするための取組をしてはどうか。」については、商店街の雰囲気向上など商店街の活性化を進めるためには、まずは、商業者自らが考え、行動することが重要だと考えています。今回、このタウンミーティングの企画をしていただいた平塚青年会議所の中にも、商店街の関係者がいらっしゃると思いますので、先ほどの流行りの物のお店やおしゃれなカフェなども含め、皆さんが提案したアイデアを商店街で積極的に採用していただければありがたいと思います。

市では、商店街が賑わい創出に繋がる取組を行う場合は、アドバイザーの派遣や補助金の交付などの支援を引き続き行っていきたいと考えています。

次の2点目の「出店希望者にお試し期間を設けてみてはどうか。」については、いわゆるチャレンジショップのことだと思います。

チャレンジショップについては、先ほどもお話しした「まちなかベース きちきち」には、キッチンなども整備されていますので、チャレンジショップとして活用していただけるのではと考えています。また、チャレンジショップに出店した方が、「引き続き平塚でお店を続けたい」ということになれば、空き店舗を活用して出店する事業者に対して、店舗賃借料や店舗改装費への補助も行っていますので、この制度を活用して商店街に出店していただくことで、商店街の賑わいにつながると考えています。

今回のタウンミーティングでは、中心商店街のにぎわいについて、色々と御提案をいただきました。今後も若い皆さんには、是非、積極的に中心商店街に足を運んでいただき、気づいたことがあればまた、御提案してもらえればありがたいと思います。ありがとうございました。

グループ3（高校生）・シティプロモーション

【高校生】

私たちのグループは、高校生視点の「サイクリングで巡る平塚の遊び方」をSNSで発信することを提言します。

まず現在、平塚市では様々な広報がされています。平塚市の公式サイトでは、病気や出産などの暮らしのシーン、湘南ひらつかナビでは、観光やイベント、グルメ、公式Twitterでは、施設の情報や様子など、公式インスタグラムで

はきれいな写真を載せて平塚市の名所などを紹介しています。またSNSだけではなく、平塚駅や神奈中バスの中にはポスターや張り紙、平塚市内の学校にもイベントのお知らせなどのポスターが貼ってあります。ただ、グループの中ではSNSやポスターを見たことがある、印象に残っている、という人が多くはなく、より効果的なPR方法はないかと議論を重ねました。

私たちが感じた課題は、大きくわけて3点ほどあります。1点目は、平塚を最大限に楽しめる遊び方がわかりにくいという点です。沢山の遊べるスポットなどはあることにはあるのですが、あまり多くの方には知られていないということが課題と感じられました。

2点目は、広告の色が少ない、シンプルという点です。この2つの課題により、なかなか目を引くような広告になりにくく、印象に残りにくいというのが課題と感じられました。

3点目は、SNSでも若者がなかなか目を通さない、という点です。平塚のPRをするハッシュタグなどもありましたが、もう一つ何か若者がひかれる工夫があればより良いと思いました。

そこで、高校生視点の「サイクリングで巡る平塚の遊び方」をSNSで発信すれば良いと思います。また広告に色がないことに着目して、湘南ベルマーレのイメージカラーを利用したレンタル自転車を平塚の各地に設置して欲しいと思います。湘南ベルマーレは、平塚を本拠地に活動しておりイメージカラーがとても独特なので人目に入れば誰もが自転車の存在を分かってくれると考えます。さらに、設備が整い次第、その自転車を利用した平塚巡り（ツアー（平塚ちょっぴり有名観光地めぐり）我々高校生が遊びを考える）を実施したいと考えました。そうすればベルマーレサポーターはもちろん、全国各地から平塚に観光しに来てくれると思ったからです。サイクリングが趣味な人はもちろん、少し移動したいと思った人がレンタル自転車を利用してくれるとも思います。

【市長】

なぜサイクリングに着目したのか理由を教えてください。

【高校生】

理由は2つあります。1つ目は、平塚の色々な所の景色、自然を見ながら移動できるからです。それによっていままでに見つけられなかったおすすめの場所が見つかると思いました。2つ目は、レンタルサイクルというものがあることは知っているがあまり使っているところを見ないのでぜひ若者に使ってもらいそこからアピールすることが出来たらいいと思ったからです。

【市長】

具体的にSNSでPRしたい場所があれば教えてください。

【高校生】

SNSでPRしたい場所は3つあります。1つ目は総合公園です。沢山のイベントがあること（ベルマーレフードパークなど）をあまり多くの人に知られていないからです。2つ目は湘南平です。景色がとてもきれいですが、自然が豊かなのに山の上にあるせいかあまり知られていないのでその良さを知って足を運んでもらいたいと思ったからです。3つ目は七夕まつりです。平塚ではすごく有名なイベントでその時期になると盛り上がるのでこれをアピールすることでもっと多くの人々が他地域から来てくれると思ったからです。

【市長】

提言ありがとうございます。平塚市は平坦で自転車の利用に適したまちです。コロナ禍でサイクリングは人気が高まっていますので、サイクリングを通じたまちの魅力発信はとてもいいアイデアだと思います。

また、皆さんの提言から、シティプロモーションの課題となっている若い世代への発信についての課題も知ることができました。

SNSについては、皆さんの提言にもあったように若い世代のフォロワーが少ないことが課題となっています。そこで、8月10日から8月20日までの期間中、平塚学園高等学校写真部が「ひらつかで過ごす夏休み」をテーマに企画・取材した内容を、市公式インスタグラムで発信しますので、フォローしてくださいね。

レンタサイクルの取組はシェアサイクルとして、現在サイクルポートを拡大するなど、市外から平塚に遊びに来た方も利用しやすいよう引き続き整備を進めています。

今回の皆さんの提言と似た取組として、平塚市では自転車でまちを巡り、おすすめスポットを紹介する「ひらつかLaLaぽた」という事業を進めています。

提言にある高校生の皆さん視点の「サイクリングで巡る平塚の遊び方」として、平塚の魅力のあるスポットや、巡り方を教えていただき、若い世代にも興味を持ってもらえるような事業の企画や情報の発信を進めていきますので、ぜひ市のSNSをフォローしてコメントを付けるなどして、より良い取組になるように応援をお願いします。

グループ4（中学生）・シティプロモーション

【中学生】

私たちシティプロモーショングループは、平塚の魅力が、市内・市外関わらず多くの人に認知されていない現状があると思いました。また、市の課題として若者の定住人口の減少が進んでおり、それを改善するために平塚の魅力に気づいてもらい、若者に興味を持ってもらえるイベントを企画しようと考えました。

私たちが考えたのは、平塚の特産物であるバラと、平塚発祥の生チョコを活か

したバレンタインイベントです。

まず、メインのポイントは生チョコを贈り、そのお返しにバラを送ってもらうことを習慣化したいと考えています。そして、特別な雰囲気・環境を出すために商店街をバレンタイン仕様に飾り付けます。また、バラとチョコを組み合わせた商品を開発したり、イベントのハッシュタグを作り SNS に写真をあげてもらい抽選会を実施します。

イベントを周知するために、市外からの観戦客も多い湘南ベルマーレとのコラボを実施すると効果的であると考えました。例えば、観戦に来る方に 1 人 1 粒生チョコをプレゼントし、その包み紙にバレンタインイベントのサイトに繋がる二次元コードを印刷しておきます。さらに、花菜ガーデンや周辺のお店とのコラボ企画も実施します。そこでは、チョコとバラを組み合わせた商品を販売します。例として、バラの形や香りのするチョコや、期間限定で食用バラの花びらをトッピングしたジェラートを考えました。

平塚の魅力あふれる湘南平や、総合公園、馬入ふれあい公園、商店街に SNS へ投稿してもらうためのバラとチョコをモチーフにしたフォトスポットを常設します。

バレンタインの時期には、中学校でもチョコの持ち込みを許可してもらい、平塚市民全体でバレンタインイベントを共有するため中学生である私たちから盛り上げていきたいと考えました。また、私たちでできることとしてバレンタインの期間中の商店街の飾り付けを七夕まつりと同じように、自分たちでも用意したいと思っています。

これらのことから、平塚市でバレンタインイベントを行うことで得られる効果として大きく 4 つが挙げられます。

1 つ目は、平塚の魅力が、市外から試合を見に来た人に知ってもらえるという点です。

2 つ目は、若者の中で頻繁にやりとりがあるバレンタインのイベントを行うことで平塚がカップルの思い出の地になり、愛着を持ってもらえるという点です。

3 つ目は、バレンタインイベントが有名になれば七夕まつりに加え平塚市のアピールポイントが増えるという点です。

4 つ目は、経済的な効果も期待できると考えられます。バレンタインの市場規模は、コロナ禍の 2020 年でも 1,050 億円とされており、他地域のライバルも少ないため総じて注目を集められると考えました。

これらにより、平塚の魅力の向上と市外の方からの平塚への興味や愛着が増加すると予想でき、定住人口を減少させないことに繋がると考えました。

【市長】

SNS に写真を投稿してもらうためにハッシュタグを活用した抽選会を行おう

と考えられたと思うのですが、投稿してもらうための抽選会にはどのような魅力を用意しようと考えていますか。

【中学生】

ハッシュタグごとに部門を分け、景品もその部門に合ったものを用意することでそれぞれの部門に興味がある人々の関心を集められると考えました。例えば、ベルマーレファンにはサッカー部門を想定し、湘南ベルマーレに協力をお願いしユニフォームや観戦チケットを景品として用意するのも良いと思います。

【市長】

平塚の魅力の中で、なぜバラと生チョコを選んだのか、経緯などを聞かせ下さい。

【中学生】

平塚独自の魅力やアピールポイントを話し合いで出し合った結果、生チョコとバラの2つを組み合わせればバレンタインという既存のイベントに結びつけられると思ったからです。

【市長】

提言、ありがとうございます。平塚名産のバラと、平塚発祥の生チョコレートを使ったコラボ企画で、バレンタインに実施する面白そうなイベントですね。市内外の方に平塚を知ってもらういい機会になると思います。

七夕まつりに匹敵するイベントとしての提案ですが、七夕まつりは戦災復興の一環として、商店街が始めたイベントです。現在は実行委員会形式で、市も加わって実施しています。

こうした商品開発やイベントの実施については、ノウハウを持つ青年会議所などが中心となって、街おこしとして進めていくほうが、若い皆さんの自由な発想を生かせるし、より柔軟でタイムリーな発信もできるのではないのでしょうか。

市役所は、こうした企画を応援していくのが役割だと考えています。例えば、シティプロモーションとして、市の公式SNSなどで情報発信していきますが、そもそも、シティプロモーションは市役所だけでなく、市民の皆さんや団体、学校、企業などが一緒になって取り組むことで、より効果的な、説得力のある動きになります。

このような企画を皆さんが考えてくれたことをうれしく思うとともに、市の公式SNSにも「私たちはこんな取り組みを進めています」とか「こんな情報もあるよ」などと市の魅力を投稿してもらえれば、皆さんと一緒に進んだシティプロモーションが進むと思います。

グループ5（高校生）・教育

【高校生】

7月26日に平塚市役所の教育研究所の方から平塚市のICT教育の現状やGIGAスクール構想についてのお話を伺いました。生徒一人ひとりにタブレットを配布していただき、高速大容量の通信ネットワークを導入していただいたことでICTを学習の道具のひとつとして使うことができる環境を整えていただきました。しかし課題として、授業の中で日常的に使えるようにしたいとお話を伺いました。そのなかで今後、GIGAスクール構想を活用して高校生と中学生の交流を図りたいと考えました。

他校との交流を図るうえで、具体的には話すテーマを決めて定期的に交流ができるようにしたいと考えます。総合の授業で高校生と中学生が各生徒に配られているタブレットなどのICT環境を活用して交流を持つことで、より充実した学習が可能になると考えます。また中学生が平塚市の高校に興味を持ってもらえるようなイベントを開催することも考えています。

テーマに関しては市内の社会問題など、周りで起きている時事的なものを中心として設定し、それを他校の生徒と話し合います。ICTを利用し授業の時間を使ってオンライン上で市内の身近な出来事や問題について意見交換をします。

さて、このような交流を想定する上で平塚市にお願いしたいことが2つあります。

1つ目は全校に参加してもらうために、参加の働きかけをしてもらうこと。

2つ目は平塚市の現状や課題について知るための講義を開いてもらうことです。

これらを実現することで、①ICTを活用しながら課題を解決する能力をつけること、②参加する生徒とは違った学校生活を送っている生徒と関わることによって、視野や価値観が変わったり、視野が広がったりすることで、思考がより豊かになることにつなげていきたいと思えます。この提言を通じた活動をしていくことでGIGAスクール構想のさらなる発展に繋がればと考えます。

【市長】

中学生が高校生から何を学びますか？

【高校生】

高校選びや勉強方法について、中学生にアドバイスしたりすることができると思います。また、社会問題などについても、高校生になると視野や捉え方が広がると感じているので、お互いにとって有意義な交流になると考えています。

【市長】

オンライン教育を受けていると思いますが、ICTは身近に感じていますか？

【高校生】

身近に感じています。教育にとってマイナスになることも多いかと思っていましたが、皆しっかり活用できていると感じています。

【市長】

G I G Aスクール構想の発展に向けた提言をありがとうございます。

今回いただいた提言は、高校生の皆さんと交流することで、中学生の視野が広がり、また、これからの世の中を生きるために必要な課題解決能力の育成にも繋がると思います。

特に、中学生が自分自身の進路を考える上で、オンライン等を活用して、皆さんの高校の特色を高校生の皆さんの言葉で発信してもらえると、とても良い刺激になると思います。同時に、皆さんの進路選択の時に、困ったことや参考になったことなど実体験を後輩たちに伝えてもらうことで、より深まりのある交流になるかと思います。

平塚市として協力できることがあれば、教育委員会と協議をしながら、協力させていただきたいと思います。

グループ6（中学生）・教育

【中学生】

私たちグループ⑥は「教育」というテーマで、平塚市の公立小中学校に配られたChromebookについて話し合いをしてきました。

実際にChromebookを使っている私たちが気付いた、Chromebookを使って良かった点、悪かった点を踏まえて、「先生と生徒が共に使い方を理解し、ルールやマナーを守って誰もが自由に使うことができるようになる」ことが理想だと考えました。

この理想を実現させるために、私たちから市長へ2つの提言があります。

1つ目は、Chromebook講座を開いてほしいということです。

2つ目は、自由に持ち帰りができるようにしてほしいということです。

まずChromebook講座とは、先生と生徒皆がきちんとChromebookの使い方を理解してもらうための講座です。生徒と先生と一緒に講座を受け、Chromebookのことを知ってもらいます。平塚市の小中学校には全クラスに大きなモニターがあるので、それで講座を見ることで、皆で一斉に教わることができます。そのときに、皆にもわかりやすく使い方が説明された冊子を配ります。

講座を受けてChromebookを使ってやってもいいこと・悪いことがわかれば、私たちはもっとChromebookを使いやすくなり、色々な勉強に活かせます。

2つ目の自由に持ち帰りができるようにしてほしいことについて説明します。自由に持ち帰りができるようになれば学校で出された宿題などを効率よくこなすことができます。また、機械が苦手なタイピングが遅い人も、家でタイピング練習ができます。

学校を休んでしまったときも、授業を撮影しておけば自分の家で授業を見られるので、授業に置いて行かれずに済みます。

小学校低学年の子は持ち帰ると壊してしまったりなくしてしまったりするかもしれないので、持ち帰りをしていいのは小学生の5年生以上からがいいと思いました。私たち中学生は、壊したりなくしたりする人よりも持ち帰って勉強をちゃんとしたい人の方が多いと思いました。

この2つを行って、「先生と生徒が共に使い方を理解し、ルールやマナーを守って誰もが自由に使うことができるようになる」という理想が実現すれば、私たちはChromebookを使ってもっと深く勉強することができるようになります。

以上を私たちのグループの提言とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

【市長】

Chromebook講座を受けたら中学生の皆さんは何ができるようになりますか？

【中学生】

「自分たちでルールが決められるようになります。例えば、部活でChromebookを使ってよいかのルールが今は曖昧です。本当は自主練するために使いたいけど、使ったら怒られてしまうかもしれないから使わないでいる人がいます。だから部活ごとに自分たちでルールを決められるように、Chromebookの知識を学ぶ機会が欲しいと思いました。

【市長】

持ち帰って勉強と関係ないことに使ってしまいませんか。

【中学生】

ルールが決まっていたり先生が確認したりすれば大丈夫だと考えます。今学校で使っているときもやってはいけないと言われたことをやっている人はほとんどいません。また、生徒が端末で何をやっているか先生たちは見ることができるので、違うことに使っていたら見つけられます。私たちは学校と同じように、持ち帰ってもマナーを守って使うことができると思います。

【市長】

実際に学校でタブレット端末を使用している中学生の皆さんからの貴重な意見をありがとうございます。

まず、Chromebook講座についてですが、昨年度、先生方向けの研修会を全小・中学校で2回ずつ実施しました。また、今年度に入って今日までに先生方向けの研修会を4回開催しています。また、夏休み明けにも同様に研修会を開きながら、先生方が授業で皆さんにタブレット端末の使い方を教えることで活

用が進んでいくことを期待しています。

今回の提言については、今後の取組の参考にさせてもらいたいと思います。次に、タブレット端末の持ち帰りについてですが、皆さんの言うように学習をより深めることが期待されます。

しかし、トラブルに合わないよう、まずは操作方法やルールやマナーを学ぶことが大切だと考えています。

皆さんには、これらを身につけるように取り組んでもらっていると思いますので、持ち帰りについては、教育委員会と協議をしながら考えていきたいと思います。

7 市長感想

皆さんや平塚青年会議所を始めとする皆様が綿密な準備を重ねてくれたおかげで、大変有意義な時間を過ごすことができました。心から感謝申し上げます。皆さんは若者ならではの視点で、平塚市の置かれた状況から課題を発見し、難しい課題に対しても前向きに捉え、提言はどれも柔軟な発想から得られた熱意あふれる内容でした。今回のタウンミーティングが、平塚という「まち」を見つめなおすきっかけになればうれしく思うとともに、将来の平塚市を担うような人材が出てくることを期待しています。

8 副理事長閉会あいさつ

落合市長、本日はお忙しい中、御参加いただきありがとうございました。

また、中学生・高校生の皆さんも本日にいたるまでの準備期間を含めて大変お疲れ様でした。皆さんが本日提言した内容にこれからも積極的に関わってもらえとうれしいと思いますし、平塚青年会議所としても協力していきたいと思えます。本日はありがとうございました。

以 上